

昭和興産

昭和興産は、海外での事業基盤整備を進める。タイ（バンコク）、上海、香港の3現地法人のうち、上海および香港拠点の人員を増員。香港拠点では近く日本人の駐在スタッフを置くことと「華南エリアも攻める」として「液晶関連、太陽電池関連素材が大きく伸びる。ただ、足下では伸びが少し鈍化している」という。

昭興は現在推進中の3カ年経営計画のなかで、重点市場と位置付けるアジア地区での売り上げ比率拡大を重点施策の1つと位置付けており、3拠点の合計売上高を早期に50億円に引き上げる。

昭興興産は今年度（2010年12月期）から中期3カ年経営計画「SK Challenge 2012」をスタートした。日本とアジアで活躍できる企業へ向けて事業基盤を強化することを基本方針とし、主要仕入先との関係見直し・強化、環境配慮型製品を中心と

した新規ビジネスの拡大、アジアの売り上げ比率の拡大に取り組み。初年度に当たる今期の業績は、上期（1～6月）の売上高、粗利益がとも前年同期の水準を大きく上回った。とくに液晶関連、太陽電池関連素材が大きく伸びる。ただ、足下では伸びが少し鈍化している」という。

アジアで事業基盤を整備

アジア地区でのビジネスは順調な伸びを示している。中計ではアジアの売り上げ比率を10%に引き上げる目標を掲げる。現在の3拠点の合計売上高は32.3億円規模。上海拠点はこれまでの5人体制から1人増員し、香港も新たに駐在する日本人スタッフを含めて11年度から3名体制として機能を強化する。タイ拠点については「様子を見て日本人スタッフを1名増やす」ことを検討している。